

志木市議会議員 無所属

天田いづみの議会だより

市議会・まちづくり情報



〒353-0006 志木市館1-1-2-108

Tel/Fax: 048-471-1338

E-mail: amada@ff.e-mansion.com

天田いづみのホームページ <http://www.ff.e-mansion.com/~amada/>

第41号 2010年6月

保育ニーズに応えるのは社会の責務

4月22日NPO法人彩愛会主催「ひとり親支援講座」で、ご自身の体験を生かしシングルマザーを支援しているNPO法人Wink理事長新川てるえさんより、「シングルマザーの現状」を伺いました。

シングルマザーの方々は、生活保護申請をすることに抵抗がある。一度生活保護になったら抜け出せなくなるのではという危機感があり、手取り12万円程度で生活保護以下の生活をしている。就労は厳しく、ダブルワーク、トリプルワークで頑張っている。

保育園にすぐに預けられれば働けるのに、2～3ヶ月待機しなければならない間に生活費は底をつき、泣く泣く親元に帰るという現状をお聞きしました。

離婚率・再婚率の増加、未婚のシングルマザー等、子育ての実態は多様化しているけれど、子どもにとっての安心できる育ちは社会全体で支えていくべきと、改めてその責任を強く感じました。

志木市の昨年10月1日現在の待機児童数は37人です。議会だより40号でお知らせして以降、さらに6月には、館(柳瀬川駅前ペアクレセント2階)に60人定員の民設民営認可保育園が開園予定です。

市内公立保育園を利用されている方々より、市外の保育園では土曜日でも通常と同じ保育時間なの

に、志木市では午後3時までなので、勤務中に迎えに行かなければならないとのご意見をいただきました。志木市でも、民設民営保育園(6月開園予定を含め4園)では、土曜日でも午後8時までの保育時間です。

市立三ツ木保育園(定員80人)は1980年に建築された木造平屋建で老朽化が進んでおり、耐震補強工事・大規模改修工事が必要な「公共施設安心・安全化計画」(2010年度に策定)の対象施設となっています。

上宗岡三丁目(宗岡第二小学校敷地を活用)に2011年4月開設予定の民設民営保育園(100人定員)により受け入れ体制ができたところで、三ツ木保育園についても速やかに対応できるよう、今年度の新たな入園募集は見合わせ、保護者には説明を行ったということです。

保育の確保に停滞は許されません。今後も責任ある保育行政が展開されるよう、提言を続けていきます。

学童保育も保護者ニーズを反映

志木市の学童保育の保育時間は午後6時までで、保護者からは長年にわたり、通勤時間を考えせめて7時まで、一定の料金を負担してでも延長してほしいとの要望が出されてきました。

志木市は市内8小学校全てに学童保育クラブを

設置し、その運営も市直営で行ってききましたが、そのための指導員(臨時職員)の確保は、時給単価は近隣市と遜色ないにもかかわらず難しくなっています。

一方、他市では従来から、保護者会による運営、社会福祉法人への委託等、民間による多様な運営形態により保護者のニーズに応えています。

2008～2009年12月議会でこの問題を取り上げ提言を続けてきましたが、志木市は2010年モデル事業として、校舎の耐震補強・大規模改修工事が予定されている宗岡三小、宗岡四小学童保育クラブについて、7月から社会福祉法人への委託を行い、時間延長も可能となります。2011年度には市内全域で、同様に行っていく予定です。

民間委託の経費は、現在全員が臨時職員なのに対し、正規職員も採用することにより約1.5倍見込んでいますが、雇用形態の安定、指示系統等責任の明確化、社会福祉法人による児童福祉の専門性の発揮等、保育サービスの質的向上が期待されます。なお、保育料金は現在のままで、1時間延長される予定です。

7月からのモデル事業の状況を見ながら、2011年度に向けて調査・提言を続けていきます。

2010年3月議会 一般質問より

■ 公園の安心・安全化計画について

2008年度から、公園美化活動会制度が始まり、かすみ児童公園をニューハイツ町内会が、親水公園こもればのこみちと西原ふれあい第三公園(東武東上線沿いの斜面林)をNPO法人エコシティ志木が、日常的な管理(ごみ拾い、下草刈り等手入れ作業、落葉掃き等)を行っています。

一方、現状の公園について、例えば志木ニュータウンは1980年前後に開発され、公園のトイレはうっかりすると落ちてしまうような構造で、特に高齢者や子どもには危ない、安心して利用できるようにしてほしいとのご意見をお聞きしています。

また、公園の階段の手すりが四角く、高齢者は握ることができない。車いす用のスロープの箇所は丸い手すりなのですが、高齢者でもウォーキング等で積極的に階段を利用、体力づくりに努め散歩を楽しむ方々は多くいらっしゃいます。もっとユニバーサルデザインで、誰もが使いやすい公園づくりが重要ではないでしょうか。

天田いづみは1990年代から市民参加の公園づくりを提言し、志木市では新たな公園づくりは難しいものの館第四公園(柳瀬川図書館脇)、直路交通公園の改修にあたっては近隣住民の意見を反映、けいおうふれあいの森を保全する為には市民・事業者・行政が一体となって残し、管理も担っています。

公園の管理についても、早くから住民参加型まちづくりを進めてきた世田谷区等を視察し、日常的に市民が愛着を持って見守り関わっていく活動を提言してきましたが、当時は、まだ反映されませんでした。

犯罪の抑止という観点からも、市民が日常的に公共の場で管理にも参画しながら、より使いやすいユニバーサルデザインの公園づくりをしていくために、市長のマニフェストでもある公園の安心・安全化計画について伺いました。

長沼市長からは「市内には都市公園、児童公園などが65カ所もあり、これら全てを行政の力だけで点検することは容易ではない。

本年度から地域住民の皆さんと協定を結び、地域公園の清掃や遊具等の簡易点検などの日常管理を行っていただく『地域コミュニティとの公園サポート制度』を創設し、市民と協働で公園を管理する仕組みを始めた。

これにより、公園を実際に利用する方々の目線による公園管理が行われ、常に地域の目が向いていることにより犯罪等の発生の抑止力にもなるものと考えている。

公園の安心・安全化計画の策定については、地域住民の皆さんのご意見を伺いながら、地域のニーズや地域の高齢化にも対応した施設の更新、健康・医療・福祉都市構想を踏まえた新しい公園の

魅力を備えた計画を策定していきたいと考えている。」との答弁がありました。

3月31日現在、町内会や管理組合等8団体と協定を結び、13公園が市民の手により見守られているということです。市全体に広がれば、活動を通してやりがい、生きがい、人の絆も深まっていくと感じます。

■ だれもが安心して生活できるために



(1)自殺予防について

自殺予防については「埼玉県自殺対策推進ガイドライン」で、自殺を予防するための当面の重点的な対策として、①うつ・メンタルヘルス対策の充実 ②横断的な取り組みによる総合的施策の推進 ③自殺対策の地域レベルでの実施 とされています。

①では、市の保健センター、介護担当等で実施する訪問指導や基本健診・健康教育等の機会を利用して、うつ病のスクリーニングを行い、早期発見に努める ③では、地域レベルでの連携のイメージとして、地域自殺対策連絡会(仮称)など、関係者のネットワークによる支援が求められています。

窓口を一つに決めればよいということではなく、あらゆる立場できめ細やかに相談に応じていくことが重要ですが、自殺予防に関する担当はどこなのか、どのように取り組んでいくのか市民に伝えていくことも大事ではないでしょうか。



(2)アルコール・薬物依存症、うつ予防等

精神保健福祉について

依存症は治療を必要とする病気ですが、なかなか治療につながらず、本人が足を運んで入院等治療しても、また繰り返してしまう。家族も共依存といった形で病的な状況に追い込まれる、大変深刻なものです。

2月13日埼玉〈アルコール・薬物〉家族フォーラムでも、当事者や家族それぞれの立場から、依存症によるDV、暴力等の深刻な体験が語られました。家族会や、薬物依存ではダルク、アルコール依存ではマックといった依存症の通所施設につながることで、家族の絆の中で少しずつ回復していくのが共

通するところです。他にアスクといった支援組織もあります。

うつ予防についても、自殺の要因の5割以上が健康問題であり、その内7割程度は精神障がいによるものです。精神保健については、保健センターが7月から健康増進センターとなる中で、市として組織的に踏み込んだ取り組みが求められます。



(3)暴力・DV等への取り組みについて

11月25日人権研修会でも、子どもに対する性暴力、家族の中でなかなか見えにくいDVの深刻な実態を、湘南DVサポートセンター代表瀧田信之さんからお話いただき、社会の中で明らかにしにくい問題だけに、地道な取り組みの重要性を感じました。

志木市では即ち志木市DV対策ネットワーク、志木市DV対策庁内連携会議で組織的な取り組みがなされ、2010年度は男女共同参画推進基本計画の見直しに向けても取り組んでいくということです。

児童虐待についても、要保護児童対策地域協議会等のネットワークを生かし、子ども安全課では相談者が安心できるサポートを行い、相談件数も年々増加しています。

尾崎健康福祉部長からは(1)(2)に関連して「7月から新たな地域保健活動の拠点として健康増進センターがオープンする予定であり、この4月からは健康づくり支援課と保健センターの組織を統合する予定である。これにより、政策立案部門と事業実施部門がさらに連携を深められると考えている。

保健部門である健康増進センターについては市民により近い現場となっているので、即応体制を持ち、充実していくことが必要と考えている。

こうした中で、市民の心の安全の相談窓口についても考えていきたい。」との答弁がありました。

現状では個々の啓発事業や相談・支援に終始し、組織間の連携の中で日常の課題を出しながら政策にしていくまでに至っていません。予防の重要性から、取り組みの強化を求めました。

■ 高齢者の見守り、サポート体制づくりについて

(1) 市民・事業者・行政のネットワークの推進

館地区では私のご近所でも高齢者お二人が亡くなられるという大変痛ましいことがあり、道で行き会う方々とも、うちの近くでも独居の方が亡くなられた、火災があった等の会話が交わされるようになりました。

館地区の高齢化率は3月31日で21%と市内で最も高く、志木市では19%と、毎年1%近く上がってきています。

志木市要援護高齢者支援ネットワークシステムということで、町内会・民生委員・介護サービス事業者・社会福祉協議会・金融機関・郵便局・電力会社・水道検針員等々、病院・診療所も入っていますが、研修は毎年1回程度しているものの、具体的な活動にはつながっていません。

そうした中で、孤独死は市内いずれの地域でも起こってきており、その都度民生委員が高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)や市に連絡するなどして対応がなされ、時には119番通報により救急隊等により発見されることもあります。

ネットワークの構成員にはサミットやダイエー、コンビニエンスストア、地域の商店会といった、高齢者が最も身近に利用されるところが組織に入っておらず、団地の管理事務所等も入っていません。

団地の管理人の方々も常に住民の安否を気にかけてながら見回っていますが、個人情報への配慮も必要です。市がお願いして見守りの仲間として参画していただくことで、個人情報の扱いも含めどのように民生委員、市や高齢者あんしん相談センターと連携を図って見守っていけばよいかシステム化されるでしょう。

また、認知症の方は病気のために、問題行動を起こしてしまうことがあり、お店の方々も対応に苦慮する場合があります。

認知症サポーター養成講座を市長はじめ部長級の職員が受けられたのは大変ありがたいですが、そうした事業者に向けても行ってはどうでしょうか。

私も身近なドラッグストアやコープ幸町店の店長にも働きかけてみましたが、「組織的に声をかけて

いただければ、練り合わせて参加したい」「私たちも高齢者には親切丁寧な対応を心がけています」等、いずれも積極的に協力していく姿勢が感じられました。

さらに、関係者の中で情報がスムーズに連絡網等で伝わるような情報ネットワークシステムも必要だと考えます。

昨年、市民福祉常任委員会で視察した大牟田市では、23小学校区がそれぞれ「ほっと・安心(徘徊)ネットワーク」を組織して、連絡・捜索・発見・通報等を組織的に行っています。ネットワークで模擬訓練を重ねながら、認知症の方に日常的に声をかける人を増やしていくことで市民に認知症理解を広げ、地域コミュニティの再構築、世代間交流、多職種協働、地域協働のまちづくりの推進をめざしているということです。

尾崎健康福祉部長からは「現在のところ要援護高齢者支援ネットワークには地域の高齢者が利用する店舗・スーパーなどは入っていないが、今後は早期発見や見守りについて協力いただけるように働きかけていきたい。高齢者あんしん相談センターを中心とした地域のネットワークの充実が高齢者の安心・安全な地域生活にもつながると考えており、市への緊急時の連絡網についても充実していきたい。」との答弁がありました。

また、医療との連携について、医師会あるいは個々の医療機関に対して日頃から協力をお願いしていかないと、緊急時に困るケースがあるという点に関しては、尾崎部長「今後は緊急の際の医療のあり方、介護と医療の連携のあり方も含めて、朝霞地区医師会志木支部などとも相談していきたい。」とのことでした。



(2) 持続可能な小地域サロン活動の展開

小地域サロン活動は、歩いていかれる地域の身近な場所に5人以上が集まったの茶話会や健康体操等の活動団体に社会福祉協議会が助成しているものです。

3年前に志木ニュータウンの集会所で民生委員や地域福祉コーディネーターの方々体が体操サロン

を始めた当初から、今は市内20カ所に広がっており、町内会や仲間同士などで、それぞれ様々な活動をしているということです。

課題として、町内会館等が利用できる団体はいいのですが、身近に活動スペースがない地域もあります。

旧館出張所の建物は地域活動センターとして社会福祉協議会が管理し、福祉団体が利用したり、ふれあい健康交流会(料理ボランティアが1人暮らしの高齢者を招いて食事や交流)、小地域サロン等に活用されています。50㎡未満のため、公共施設安心・安全化計画の対象外で耐震の状況もわかりませんが、志木市の貴重な社会資源として、将来的には2階建てにし、高齢者の方々は1階で日常的にサロン活動をしていただき、2階は元気な方々が地域福祉活動のためのミーティングをするといった展開も必要ではないでしょうか。

このように、地域社会の組織化を支援していただくだけでなく、それに伴う活動スペースの検討について提言しました。

尾崎健康福祉部長からは「天田議員の提案である小地域活動については、地域の特性を生かした地域福祉活動が、地域福祉計画の「支え合いのあるまちづくり」として展開できるよう、新たな地域福祉計画での既存の拠点の見直しの推進も考慮しながら、市としても支援していきたい。」との答弁がありました。

■ 学校給食における地産地消と食教育の推進

志木市では、志木地区の生産者が各学校に野菜を届けて下さって学校給食に活用されてきました。後継者不足もあり、次第に量が少なくなったものの継続されていると思っていたところ、途切れているとわかり、昨年12月議会で取り上げましたが、その後改善されたのでしょうか。

また、国が推進してきた米飯給食は全国平均で週平均3.1回になったということです。

天田いづみは1993年志木市での農薬空中散布中止を求める活動から、有機低農薬の米づくりを支援し、宗岡コシヒカリを市民に食べていただくことにより農業、農地を守っていく取り組みを続けてきま

した。

米飯給食は1996年市議になった当時週2回程度でした。当時は自校炊飯は不可能といわれ、全て委託炊飯で、炊いたご飯を埼玉県学校給食会から運んでいました。調理業務の民間委託による技術力もあり実現可能となり、校舎耐震・大規模改修工事の際に順次各学校に炊飯器を導入していただきました。災害時は学校が避難所になることから、重要なことです。

そうした中での自校炊飯の状況、食教育の推進について伺いました。

山中教育政策部長からは「本市では、市内12校に栄養職員を配置し、児童・生徒の栄養バランスに配慮した、できたてのおいしい給食を提供している。

本年度もジャガイモ・ニンジン・宗岡コシヒカリなど市内で生産された新鮮な食材を積極的に取り入れるなど、地元農産物の利用を契機に食と農業を結びつけた教育実践など、教材となる献立に様々な工夫を凝らしながら食の教育に取り組んでいる。

米飯給食については年間約180回の給食のうち、およそ100回の米飯給食を実施している。今後も生産者のご協力をいただきながら、地元農産物を安定的に購入できるしくみづくりに取り組んでいく。」との答弁がありました。

今回改めて調査し、まだ炊飯器が設置されていない学校もありますが、自校炊飯については全ての学校で積極的に取り組まれ、全体で800回以上実施されていることがわかりました。

栄養士の各校1人ずつの配置に取り組んできましたが、その効果も含め、総合的にあらわれてきていると感じています。



* ~ ~ * ~ ~ * ~ ~ * ~ ~ * ~ ~ * ~ ~ *

【ご意見ありがとうございました】

「富士見橋脇の交差点に音声ガイドを」とのご意見をいただき、早速担当課と現地調査を行いました。橋の上の道路は富士見市の都市計画道路で、富士見市に将来計画があるため、その際の改善が期待されます。

● 天田いづみの活動日誌(主なもの)

- 09年11月1日 志木ぶらり散歩～新河岸川周辺の水に関わる歴史を訪ねて～(NPO法人 エコシティ志木)
 <<新河岸川広域景観プロジェクト景観かわ歩き 志木・富士見エリア>>(埼玉県)
- 2日 議会運営委員会・・・議会改革の協議について
- 3日 市民文化祭
 「まなびピア埼玉2009」いろはカッピー体操(埼玉スーパーアリーナにて)
- 4～6日 市民福祉常任委員会視察 千歳市「市立保育所の整備及び民営化計画」滝川市「アートチャレンジ滝川支援事業」「地域街なか交流広場事業」
- 9日 市民病院総合健診センターにて子宮がん検診
- 10日 認知症高齢者・ご家族とご一緒に和光病院受診
- 11日 ハト糞害視察、忌避剤を紹介し解決
- 13日 「居るだけでボランティア」住民流福祉総合研究所 木原孝久さん(社会福祉協議会)
- 15日 市民まつり「かつぱ巻きだよ！全員集合！！」に参加、志木市環境フェア
- 16日 朝霞地区4市消防団連合点検
 介護予防栄養セミナー～低栄養の予防～保健センター管理栄養士 小林麻有さん(第二福祉センター)
- 18日 第二回図書館協議会傍聴・・・指定管理者の導入について、子どもの読書活動推進計画について
- 21～22日 いろはふれあい祭り
- 24日 朝霞地区一部事務組合議会・・・し尿処理場・すわ緑風園の今後のあり方、埼玉県南西部消防本部第2次5か年整備計画の進捗状況と第3次5か年整備計画について一般質問
- 25日 人権研修会「暴力のある家庭で育った子どもたちへの支援」～DV・虐待・いじめの予防プログラムに学ぶ～湘南DVサポートセンター所長 瀧田信幸さん
- 28日 ペあもーる&たてのよこいとコラボ・フェスタ
- 29日 埼玉県のがんを考える会 第3回勉強会 国と都道府県のがん対策の現状 NPO法人 グループ・ネクサス理事長 天野慎介さん
- 30日 宗岡三小5年生 柳瀬川での環境学習(NPO法人 エコシティ志木)
- 11月26日～12月17日 議会定例会
- 12月3日 宗岡中学校古庄校長より強歩大会等について伺う
- 5日 「ふるさとをください」上映会 (NPO法人 志木市精神保健福祉をすすめる会・社会福祉協議会)
- 6日 埼玉県のがんを考える会第4回勉強会 千葉県のがん対策の取り組みについて 支えあう会「a」野田真由美さん
- 12日 「地域DE 子ども見守り隊」第4回ふれあいコンサート(志木二小にて)
- 13日 ハートフルコンサート(総合福祉センター・宗岡第二公民館・児童センター・宗岡子育て支援センター)ハートフルバザー(志木市社会福祉協議会)
- 16日 地域包括支援センター運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会・・・事業者選定に関わるプレゼンテーション傍聴
- 18日 西原子育て支援センターまんまある 演奏会(NPO法人 子育てネットワーク ひろがる輪)
- 2010年1月7日 認知症ご家族を訪問サポート



- 10日 消防出初式
ドラッグストア店長に認知症への理解と協力をお願い
- 12日 議会運営委員会…議会改革の協議について
- 14日 笑ふヨガ NPO法人 かけはし 武田真知子、増田暁子、乙部純枝さん(地域包括支援センター 柏の杜)
- 17日 がんサロン たんぽぽの会(埼玉県のがんを考える会)
- 19日 人権研修会「高齢者虐待を防止するために」NPO法人 日本高齢者虐待防止センター理事 山浦成子さん
- 20日 民生委員推薦会
車いす市民と上福岡駅・志木駅エレベーターとホーム、柳瀬川駅ホームを現地調査
- 23日 第7回東洋大学理工学部建築学科「志木地区のまちづくり提案展」(ふれあいプラザにて)
- 26日 朝霞地区一部事務組合 埼玉県南西部消防本部 和光消防署開署に伴う見学会
- 30日 アフターファイブ(21しき市民会議5期)新年会
- 31日 「ゆずり葉」上映会(志木市聴覚障害者の会・志木手話サークル・社会福祉協議会)
- 2月3日 柳瀬川の浚渫工事について埼玉県朝霞県土整備事務所より説明を受ける
- 5日 第35回志木市小中学校特別支援学級合同作品展 太陽展
- 7日 議会改革について(志政フォーラム)
惣囲堤と水塚の文化から学ぶシンポジウム(NPO法人 エコシティ志木)
- 10日 いしもと脳神経外科・内科にて脳ドック
- 13日 ふれあいサロン あざみ(ボランティアグループ「みのりの会」)オープニングセレモニー
埼玉〔アルコール・薬物〕家族フォーラム ASK・ヒューマン・ケア研修相談センター所長 水澤都加佐さん他(同フォーラム実行委員会 代表 成瀬暢也(埼玉県精神医療センター))
- 15日 コープ幸町店 店長に認知症への理解と協力をお願い
- 17日 西原ふれあい第三公園斜面林、富士見橋交差点立会い(道路公園課)
- 18日 市民病院経営改革課尾崎課長に整形外科医師確保の取り組みについて聞く
- 21日 宝幢寺ふすま絵公開『志木の街と宝幢寺』尾崎征男さん
- 22日 館1丁目にて高齢者お二人が亡くなられる
- 27日 知的障がい者の家族支援研修会「家族にとって必要な支援とは」明星大学人文学部教授 吉川かおりさん(志木市手をつなぐ育成会・社会福祉協議会)
- 2月23日~3月23日 議会定例会
- 3月2日 ふれあいサロン スペース・わ(ボランティアグループ「ダリアの会」)オープニングセレモニー
- 13日 志木二中卒業式
- 22日 志木二中吹奏楽部定期演奏会
- 24日 志木二小卒業式
- 25日 地域包括支援センター柏の杜 石幡所長と集合住宅における課題等について懇談
- 26日 朝霞地区一部事務組合議会…2010年度予算に対する質疑等
認知症講座…認知症サポーター養成講座、福祉劇(地域包括支援センター せせらぎ)
- 27日 天田いづみのティータイム
- 28日 さくらフェスティバル フリーマーケット、村山快哉堂まつり



■ 新たに生まれ変わった志木四小！！

4月27日、新しい学区で新学期をスタートした志木四小を視察させていただきました。特に、1年生の子どもたちが元気で驚きました。全学級すっかり落ち着いて学習に取り組む姿が見られました。

警備員さんは「従来の北門と同じように、新しくできた東門(幸町側)の方も、少しずつ花を植えたりしてきれいにしていきたい」「用務員さんもさりげなく子どもたちの通るコーナーに花を飾ってくれたり、何もいなくても以心伝心、皆が自分に何が出来るかを考えて力を出してくれている。ありがたい。」と三好校長。もくせい会(PTA)の保護者同士も自然に思いやり協力し合う姿がみられ、融和を感じます。

5月7日、朝の通学の様子を東門、北門に立ち視察しました。幸町方面(久保・城が丘・福住)から来る子どもたちは、1年から6年まで一緒に通学班で登校、東門手前の十字路で6年生は志木二小に、1～5年は志木四小に入っていきます。

十字路では保護者が交替で、東門では警備員、その間では三好校長が一人ひとりに声をかけ、子どもたちは嬉しそうに笑顔で学校に入っていきます。

こうして、幾重にも支えてくれる地域の人の輪に守られて、志木四小は地域が融合した新しい学校として、力強く活動しています。



東門から登校する志木四小児童(10.05.07)

■ 明るくなりました

市民体育館前の信号機付近は、体育館の照明が消える夜10時以降大変暗く、防犯上も改善を求めご意見を近隣町内会の方々からいただきました。3月末に道路照明灯が設置されました。

■ 柳瀬川図書館について

公の施設の管理方針が2月に改訂され、「柳瀬川図書館については、志木市立図書館協議会の意見を参考にしながら、民間事業者の実績や手法を活用することによる、市民サービスの向上や経費の縮減の効果を検証した上で、指定管理者制度の導入を検討するものとする。」とされ、2013年度までの導入計画一覧では、引き続き「検討・導入」とされています。

従来は今年度から導入とされていましたが、「効果の検証を」「慎重に」など、皆様からいただいたご意見を一般質問等で働きかけ、力になりました。

図書館協議会では市民の方々による真摯な議論が行われています。市民の宝である柳瀬川図書館がより良くなりますよう提言していきます。

■ だれもが利用しやすい交通システムを

高齢者の方々から多くのご意見をいただきながら、一定の料金で誰もが安心して利用できる交通システムを提言し続けてきました。

3月議会では長沼市長から「国際興業株式会社が本年9月16日をもって中野下引返場バス路線を廃止することです。市としてはワイス跡地の開発や財政面を踏まえつつ、費用対効果に見合う代替え策が可能かどうか。さらに、ふれあい号の運行業務委託が2011年9月末日までとなっていることも含め、総合的に検討していきたい。」との方針が示されました。

今後も検討状況についてお知らせしていきます。



ティータイム

7月10日(土)

午後 2:00~4:00

柳瀬川図書館2階視聴覚室

志木の中で身近に感じていることなどを

気軽にお話しませんか？

**** これまでの活動とその成果は！！ ****
天田いづみのホームページでご覧下さい